

木田駅周辺地区 都市再生整備計画事後評価 評価委員会

令和 8 年 1 月 20 日
あま市 都市計画課

事後評価制度の概要及び木田駅周辺地区におけるまちづくりの経緯

議題（１）事後評価手続きにかかる審議

議題（２）今後のまちづくりについての審議

評価委員会後のスケジュール

事後評価制度の概要

1) 事後評価とは

- ・事後評価とは、都市再生整備計画事業に基づく制度。
- ・交付期間終了時に、事業の成果等を検証し、その後とのまちづくりに活かすために実施する。

事後評価の考え方①

計画策定時に設定した**数値目標の達成状況や、まちづくりのプロセス等**をわかりやすく評価・可視化し、その結果を公表する

事後評価の考え方②

事後評価の結果を**長期的・継続的なまちづくりにフィードバックする**



事後評価

これらの考え方をもとに事後評価を実施

2) 都市再生整備計画事業とは

- ・ **地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくり**を総合的に支援し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的とする事業
- ・ 対象事業は、都市の再生に必要な公共公益施設の整備等に関する計画「**都市再生整備計画**」に基づき実施される以下の事業等

【基幹事業】

道路、公園、河川、下水道、地域生活基盤施設（緑地、広場、地域防災施設、再生可能エネルギー施設等）、高質空間形成施設（歩行支援施設等）、高次都市施設（地域交流センター、観光交流センター等）、誘導施設相当施設（医療、社会福祉、教育文化施設等）、既存建造物活用事業、土地区画整理事業、エリア価値向上整備事業、こどもまんなかまちづくり事業、暑熱対策事業 等

【提案事業】

事業活用調査、まちづくり活動推進事業（社会実験等）、地域創造支援事業（市町村の提案に基づくソフト事業・ハード事業）



これらの事業について
国から交付金による
支援がなされる

3) 評価委員会の役割

○評価委員会

- ・事後評価結果の合理性・客観性を担保するため、第三者によって構成される「評価委員会」を実施し、意見聴取を行う。

評価委員会の目的

- ① **事後評価の手続き、目標の達成状況等の結果**について、その妥当性を審議し、不適切な点や改善すべき点があれば意見を述べる。
- ② **今後のまちづくりの内容の妥当性**について審議し、不適切な点や改善すべき点があれば意見を述べる。

本日は主に以下の事項について、皆様からご意見をいただきたいです。

- 事後評価の手続きの妥当性
- 指標の達成状況に対する評価
- 事業実施による効果発現要因の整理
- 今後のまちづくり方策の内容

木田駅周辺地区における まちづくりの経緯

1) 木田駅周辺地区都市再生整備計画の概要

- ・令和2年度に策定した「**木田駅周辺地区都市再生整備計画（参考資料1）**」の概要について説明

様式(1)-①

都市再生整備計画(第2回変更)
木田駅周辺地区

愛知県 あまし

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークブル推進事業	<input type="checkbox"/>

1) 木田駅周辺地区都市再生整備計画の概要

○課題（3）残された課題や新たな課題について

参考 1 p. 2

【課題 1】

道路冠水の軽減に向けた安全安心な生活環境整備を進める

【課題 2】

駅周辺の歩行者・自転車の通行環境や駅前の公共空間の利便性の向上等に向けて、道路整備等を進める

【課題 3】

整備した駅前広場に滞在できる快適な施設環境の一層の向上

【課題 4】

地域コミュニティの結束を高めるためのにぎわい形成・魅力向上に向けた取組を進める

【課題 5】

まちづくり協議会が地域まちづくりの母体として継続を図る

1) 木田駅周辺地区都市再生整備計画の概要

〇まちづくりの目標

参考 1 p. 2

大目標

安全・安心とにぎわいを生む
駅周辺のまちづくり

【課題 1】 道路冠水の軽減に向けた安全安心な生活環境の整備

【課題 2】 駅周辺の歩行者・自転車の通行環境や駅前の公共空間の利便性の向上

【課題 3】 整備した駅前広場に滞在できる快適な施設環境の一層の向上

【課題 4】 地域コミュニティの結束を高めるためのにぎわい形成・魅力向上に向けた取組の推進

【課題 5】 地域まちづくりの母体となる組織の継続

【目標 1】 誰もが安全・安心に生活できるまちづくり

【目標 2】 駅を安心・快適に利用できるまちづくり

【目標 3】 地域住民の交流によるにぎわいを生み出すまちづくり

1) 木田駅周辺地区都市再生整備計画の概要

○目標を定量化する指標の設定

参考 1 p. 2

【目標 1】 誰もが安全・安心に生活できるまちづくり

【指標 1】 災害に対する不安の改善度
5段階評価のアンケート調査の平均値（満足 5、やや満足 4、普通 3、やや不満、不満）

【目標 2】 駅を安心・快適に利用できるまちづくり

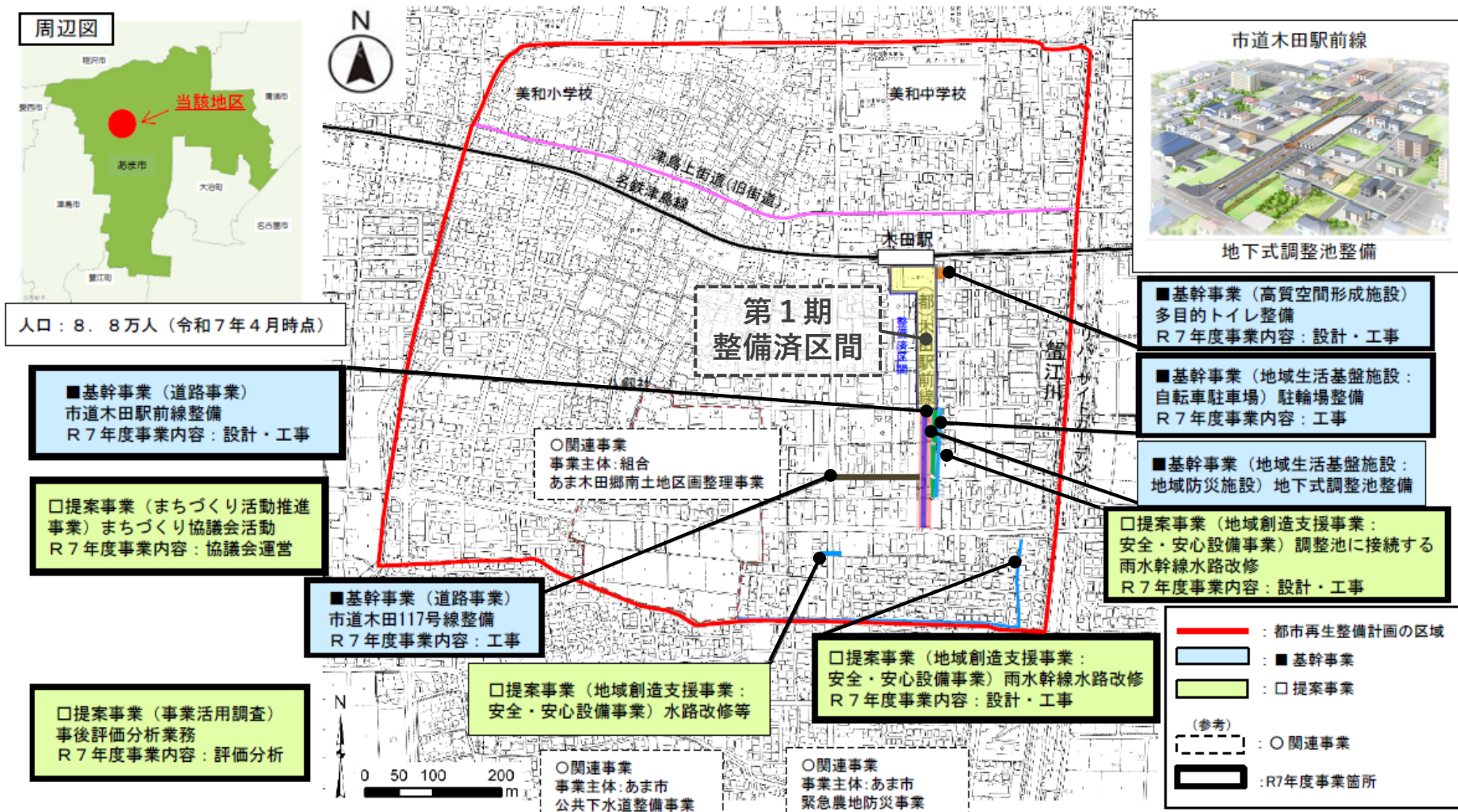
【指標 2】 地区内の歩行者交通量
木田駅前線他の歩行者通行量

【目標 3】 地域住民の交流によるにぎわいを生み出すまちづくり

【指標 3】 まちづくり活動参加人数
地域住民が開催するまちづくり活動の参加人数

1) 木田駅周辺地区都市再生整備計画の概要

○整備方針の概要



2) 主要な事業

【目標1】誰もが安全・安心に生活できるまちづくり

参考1 p.3

基幹事業

○地下式調整池整備事業

- ・道路冠水等に対する安全な生活環境づくりとして、地下式調整池を整備

※令和8年3月完成予定



整備中の写真

提案事業

○安全・安心設備事業（水路改修等）

- ・老朽化が進み機能低下していた幹線水路を改修

※令和8年3月完成予定



改修中の写真

2) 主要な事業

【目標2】 駅を安心・快適に利用できるまちづくり

参考1 p.3

基幹事業

○市道木田駅前線整備事業

- ・ 駅南のアクセス性向上、歩行者の安全性向上を図るため、木田駅前線の南伸整備を実施

※令和8年3月完成予定



整備中の写真

基幹事業

○市道木田117号線整備事業

- ・ 駅南へのアクセス性向上を図るため、木田駅へ通じる道路整備を実施

※令和8年3月完成予定



整備中の写真

2) 主要な事業

【目標2】 駅を安心・快適に利用できるまちづくり

参考1 p.3

基幹事業

○木田駅前駐輪場整備事業

- ・ 自転車による利便性向上を図るため、駐輪場の拡張整備を実施

※令和8年3月完成予定



既設箇所

整備中の写真

基幹事業

○多目的トイレ整備(バリアフリー対応)

- ・ 駅前広場の快適な環境づくりに向け多機能トイレを整備

※令和8年3月完成予定



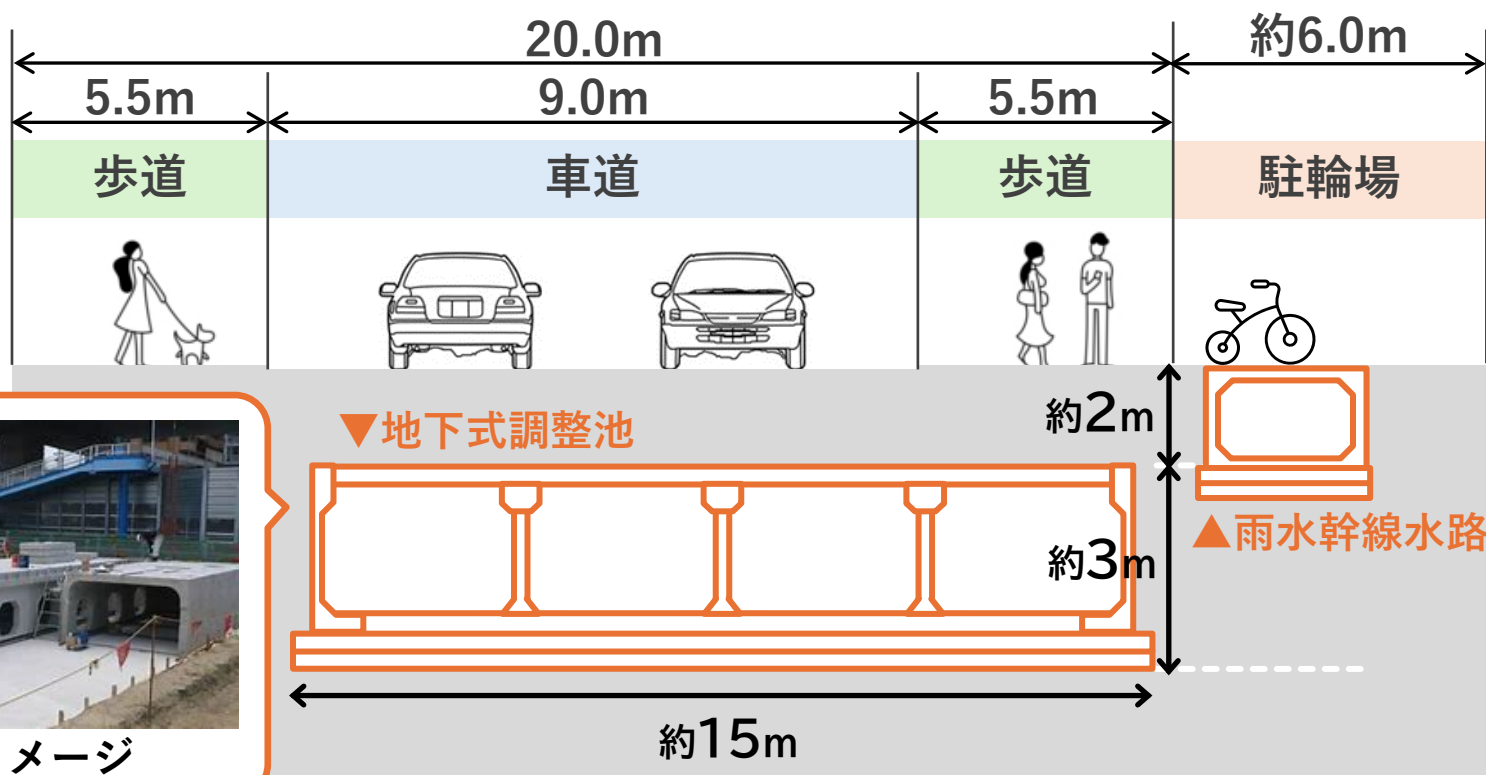
完成イメージ

整備中の写真

2) 主要な事業

○市道木田駅前線・地下式調整池について

- ・市道木田駅前線・道路：全長約177m、幅員約20m、両側歩道
駐輪場：約401台
- ・地下式調整池 ・・・容量：貯留量2,000m³（25mプール7.7個分）
市道木田駅前線の深さ約2mの地下に整備



製品イメージ

2) 主要な事業

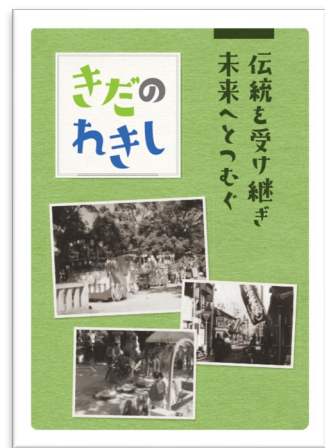
【目標3】 地域住民の交流によるにぎわいを生み出すまちづくり

参考1 p.3

提案事業

○まちづくり協議会活動

- ・新旧住民による交流を図るため、地区の歴史・文化を伝えるパンフレット「きだのれきし」を作成。（令和5年）
- ・地元行事と連携した駅前マルシェを実施。（令和6年、令和7年）



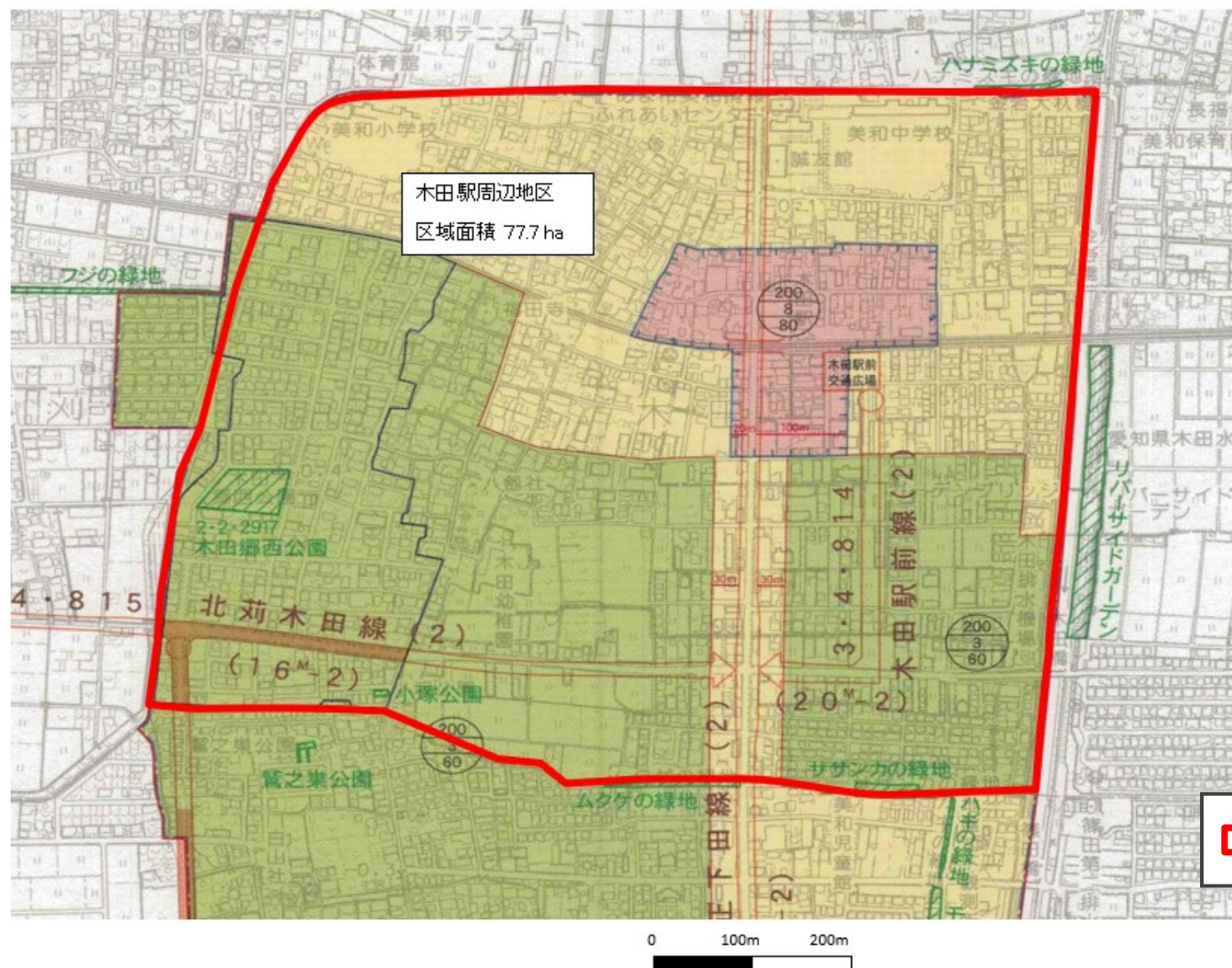
駅前マルシェの様子(R7.10月)

「きだのれきし」

3) 計画区域

○計画区域

参考 1 p. 5

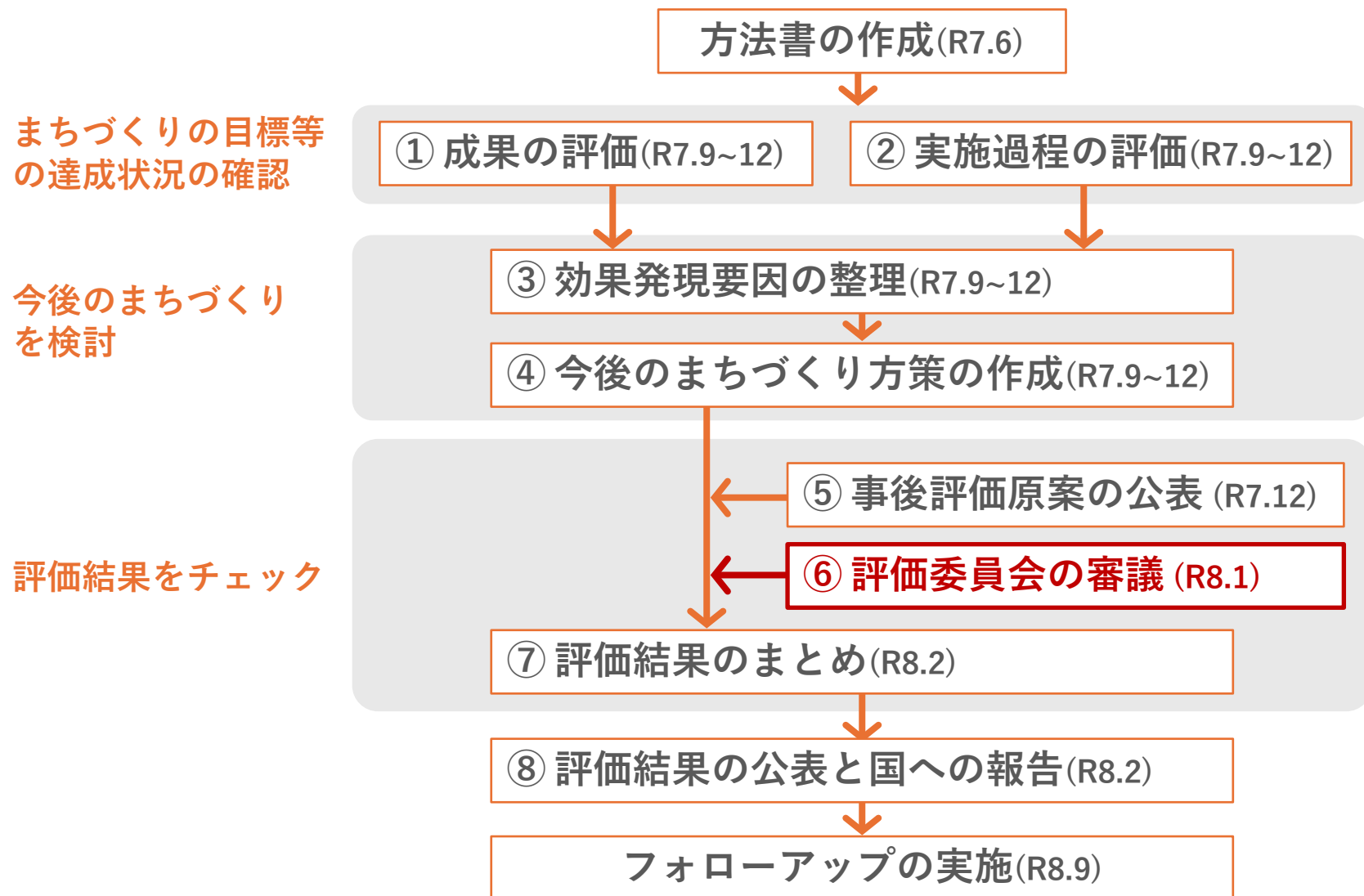


計画区域

議題（１）事後評価手続きにかかる審議

1) 事後評価の流れ

- ・事後評価は、国の手引きに沿った以下の流れで進める。



2) 方法書

参考資料 2

- ・ 方法書とは、事後評価の始めに各項目の工程や実施内容等の「事後評価の進め方」をまとめた資料

【作成日】

令和 7 年 6 月

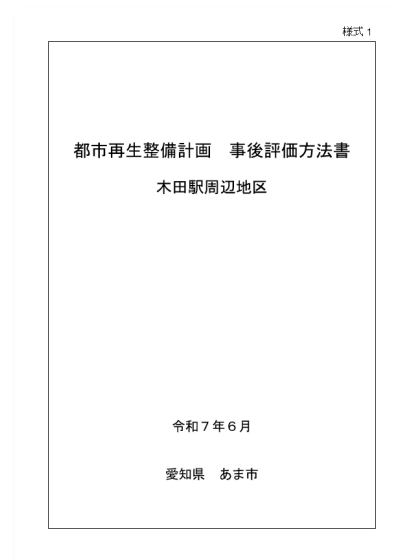
【作成資料】

事後評価方法書

【作成後の変更内容】

評価作業の進捗を踏まえ、下記スケジュールを変更

- 原案公表 1 月 ⇒ 12 月に変更
- 評価委員会 2 月 ⇒ 1 月に変更



★評価委員会で審議する事項

- ・ 「方法書」で取りきめた工程、内容に沿って事後評価が進められているか

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【「成果の評価」における評価方法】

- ・評価方法には「定量的な評価」と「定性的な評価」の2種類がある
- ・事後評価では、数値目標等による定量的評価だけでなく、「まちづくりのプロセス」に着目した定性的評価も実施

定量的な評価（指標等の数値・数量で表せるもの）

○数値目標の達成状況

【指標1】災害に対する不安の改善度

【指標2】地区内の歩行者交通量

【指標3】まちづくり活動参加人数

○その他の数値指標による計測（数値目標では計測できない効果を図る指標） にぎわいや地域活動の活発さに関する住民満足度

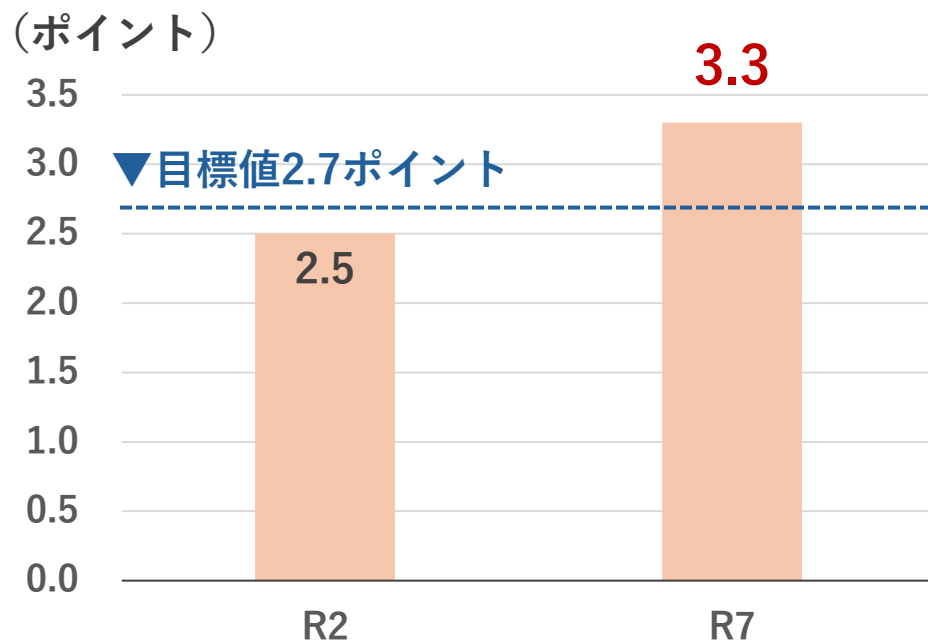
定性的な評価（数値化できない部分に着目するもの）

○持続的な組織の体制構築、地元住民の交流の場の創出

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標1】 災害に対する不安の改善度

資料 3 p. 8



定義

「木田駅周辺のまちづくりに関するアンケート」における「豪雨時の水はけや災害への安全性」の5段階評価（満足5、やや満足4、普通3、やや不満2、不満1）の平均値を算出

$$\text{評価値} = \frac{\text{不満1点} \times \text{不満の回答数} + \sim + \text{満足5点} \times \text{満足の回答数}}{\text{回答総数}}$$

目標達成度

○ 評価値が目標値を上回る

目標達成度○の理由

- 地下式調整池整備及び雨水幹線水路の改修により、地区内の排水機能が向上し、災害に対する不安の改善がみられ、**目標値を上回る結果**となった。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標1】災害に対する不安の改善度

資料3 p.11

種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度
基幹事業	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)	○
	市道木田117号線整備	○
	木田駅前駐輪場整備	○
	地下式調整池整備	◎
	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)	○
提案事業	安心・安全施設事業	○
	事後評価分析業務	-
	まちづくり協議会活動	○
関連事業	あま木田郷南土地区画整理事業	○
	公共下水道整備事業	○
	緊急農地防災事業	-

効果発現要因の整理

- ・ **地下式調整池整備及び幹線水路の改修**により、地区内の排水機能が向上し、災害に対する不安の改善が確認できた。
- ・ まちづくり協議会が発行するニュースレターで、**整備の進捗報告**を行ったことも不安の改善に寄与したと考えられる。

今後の活用

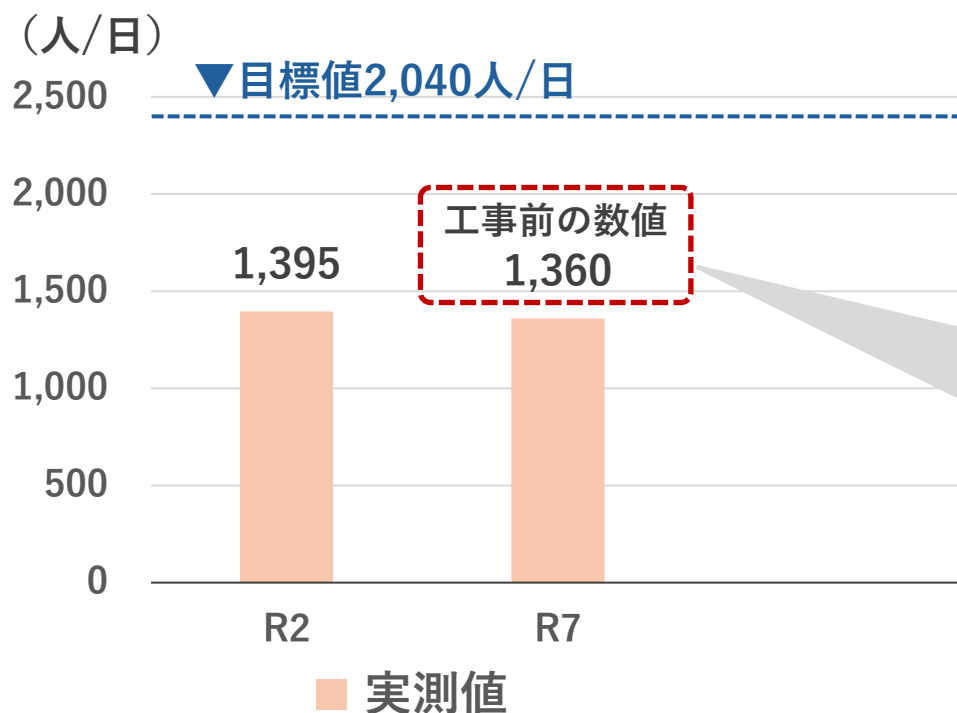
- ・ 今後も安全・安心な生活環境づくりに向けて、引き続き木田地区排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能向上に向けた検討を行う。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標2】 地区内の歩行者交通量

見込み値を使用

資料3 p. 8



定義

歩行者交通量調査における名鉄木田駅南側駐輪場前の南行き及び北行きの合計通行量を算出

拡張予定の駐輪場が未整備状態での数値となるため、事業による効果が反映されていない



木田駅前線及び駐輪場の整備の様子

指標の計測時期までに事業が未完了の場合

- ・事業完了後における「**見込み**」の値を推計して、それを指標の「**評価値**」として**代用**する。来年度、事業完了後にフォローアップを行い、「**確定値**」を計測予定。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標 2（地区内の歩行者交通量）における見込み値の算出】

① 拡張後の駐輪台数のうち、80%が利用されると想定して、歩行者通行量を推計

$$401\text{台} \times 2\text{人} \times 0.8 \div 641\text{人} / \text{日 増加と予測}$$

駐輪場の
拡張台数

往復利用
を想定

既設部分が満車状態であり、高い利用率
が見込まれるため80%利用を想定

② 令和7年度歩行者交通量調査結果（1,360人）に推計した数値（641人）を加える

$$1,360\text{人} + 641\text{人} = 2,001\text{人} / \text{日}$$

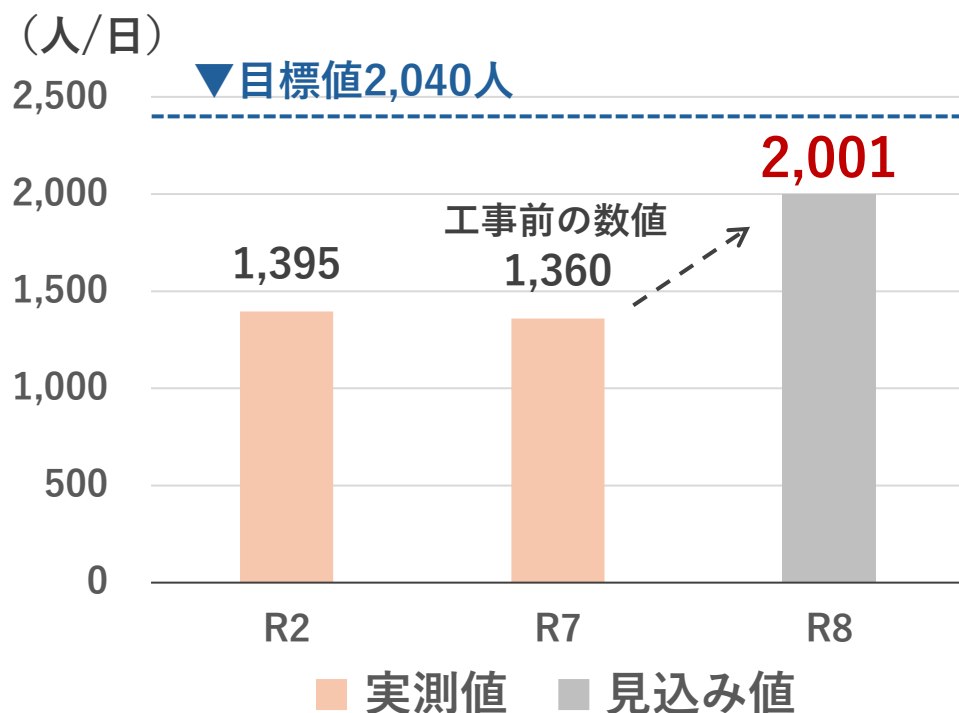
見込み値として使用

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標2】 地区内の歩行者交通量

見込み値を使用

資料3 p.8



定義

歩行者交通量調査における名鉄木田駅南側駐輪場前の南行き及び北行きの合計通行量を算出

※市道木田駅前線及び木田駅前駐輪場の拡張整備前の数値となるため、整備完了後の見込み値を評価値として使用

目標達成度

△
評価値が目標値に達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる

目標達成度▲の理由

- 市道木田駅前線の南伸整備及び木田駅前駐輪場の整備完了により交通利便性や安全性が向上することで、**更なる木田駅利用者及び歩行者交通量の増加が見込めると考えられる。**

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標2】地区内の歩行者交通量

資料3 p.11

種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度
基幹事業	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)	○
	市道木田117号線整備	○
	木田駅前駐輪場整備	○
	地下式調整池整備	－
	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)	○
提案事業	安心・安全施設事業	－
	事後評価分析業務	－
	まちづくり協議会活動	○
関連事業	あま木田郷南土地地区画整理事業	○
	公共下水道整備事業	－
	緊急農地防災事業	－

効果発現要因の整理

- ・ **行き止まりとなっている市道木田駅前線の南伸整備等**により、地区内の歩行者交通量は増加すると考えられる。
- ・ 台数不足で場外に自転車があふれている駐輪場の拡張整備により、**更なる自転車利用が促進**され、自転車・歩行者交通量が増加すると考えられる。

今後の活用

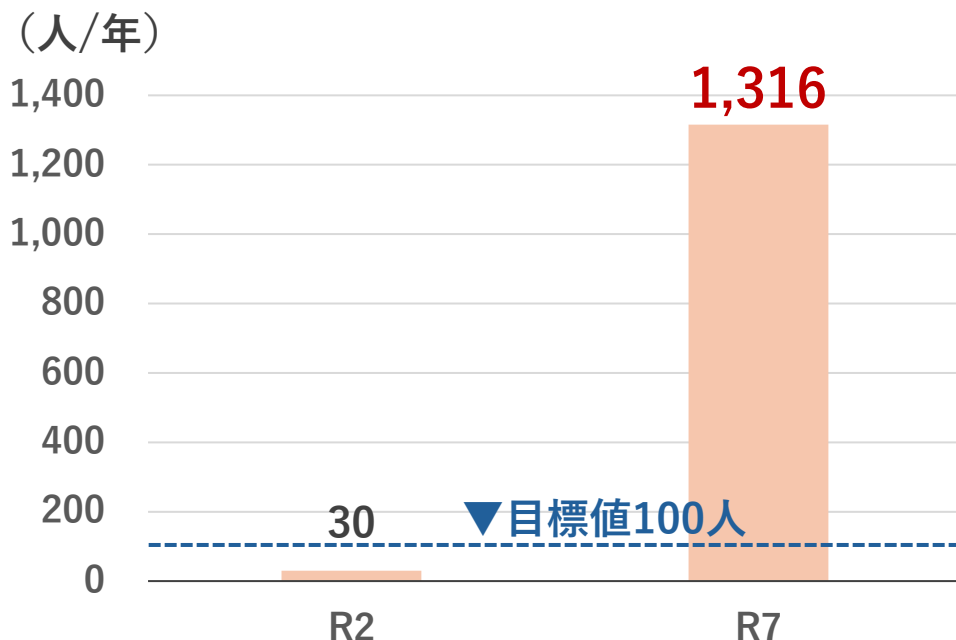
- ・ 快適な道路空間の確保に向けて、駅周辺の維持管理を引き続き実施するとともに、更なる安全性向上に向け、接続道路の整備や歩道整備等を検討する。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標3】まちづくり活動参加人数

確定前

資料3 p.8



定義

令和7年度まちづくり協議会（役員会、委員会）の参加人数、令和7年10月に開催した駅前マルシェの参加人数を計測

※第2回委員会参加人数が未反映となるため確定前の数値

目標達成度

○ 評価値が目標値を上回る

目標達成度○の理由

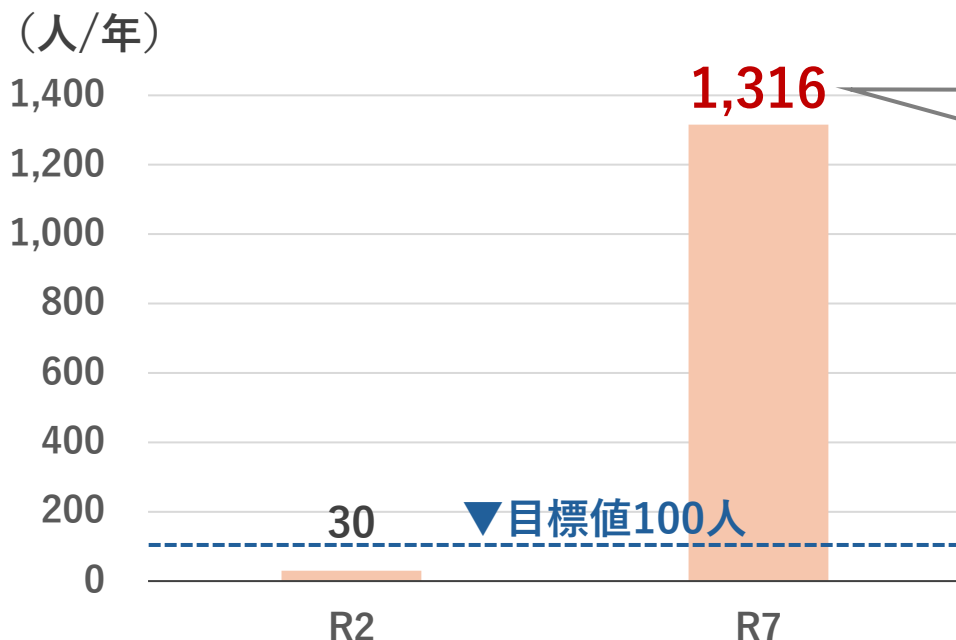
- ・ 地元の出店事業者と連携した駅前マルシェの実施により、まちづくり活動の参加人数が増加し、**目標値を上回る結果**となった。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標3】まちづくり活動参加人数

確定前

資料3 p.8



【目標値を大幅に上回った理由】

策定当時は駅前マルシェの実施が決定しておらず、**地元主体のウォーキングイベント等の規模を想定**して目標値100人を設定。

駅前マルシェ参加人数は、本指標で見込んでいた「**地域活動を活発にする意識づくりや人とのつながりの維持形成**」に資すると考えられるため評価値とする。

目標達成度○の理由

- ・ 地元の出店事業者と連携した駅前マルシェの実施により、まちづくり活動の参加人数が増加し、**目標値を上回る結果**となった。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【指標3】 まちづくり活動参加人数

確定前

資料3 p.11

種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度
基幹事業	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)	○
	市道木田117号線整備	○
	木田駅前駐輪場整備	○
	地下式調整池整備	-
	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)	○
提案事業	安心・安全施設事業	-
	事後評価分析業務	-
	まちづくり協議会活動	◎
関連事業	あま木田郷南土地区画整理事業	-
	公共下水道整備事業	-
	緊急農地防災事業	-

効果発現要因の整理

- ・まちづくり協議会による地元行事と連携した駅前マルシェの実施や、地区の歴史・文化を伝えるパンフレット「きだのれきし」の作成により、**木田駅周辺のまちづくりに関する興味・関心を持つ住民が増えた**と考えられる。



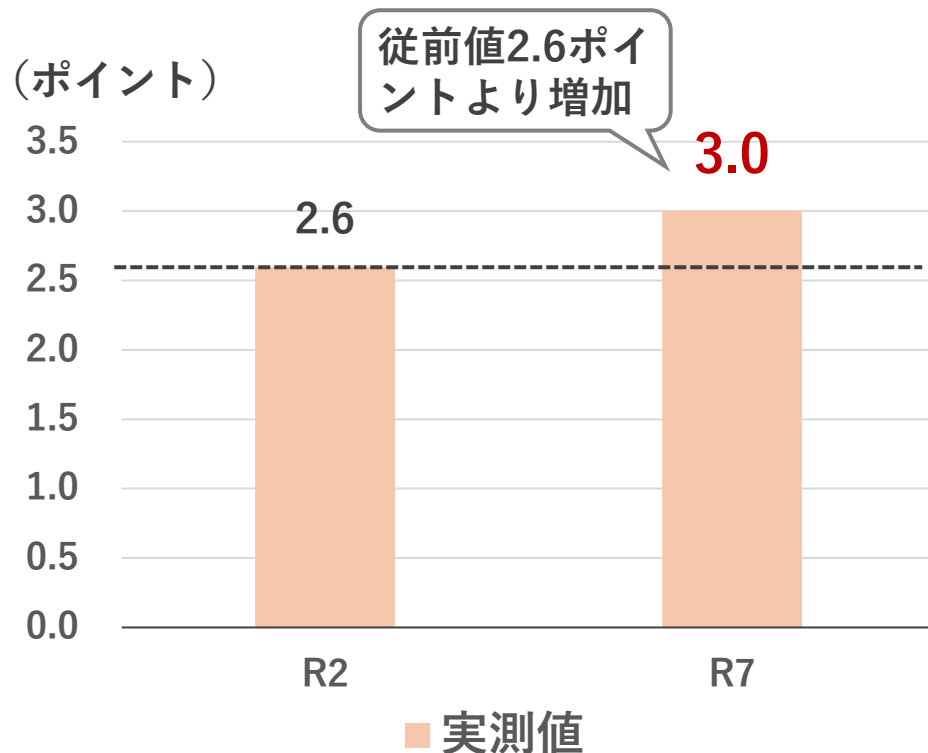
今後の活用

- ・引き続き、駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴史・文化の継承を実施する。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【その他の指標1】にぎわいや地域活動の活発さに関する住民満足度

資料3 p.9



定義

「木田駅周辺のまちづくりに関するアンケート」における「にぎわいや地域活動の活発さ」の5段階評価（満足5、やや満足4、普通3、やや不満2、不満1）の平均値を算出

本指標を取り上げる理由

- ・まちづくり協議会による地区の歴史・文化を継承するためのパンフレット「きだのれきし」の作成や、駅前マルシェの実施等を踏まえ、**地域活動の活発さに対する住民の満足度を定量的に図る指標**としてふさわしいと考え取り上げる。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【その他の指標1】にぎわいや地域活動の活発さに関する住民満足度

資料3 p.11

種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度
基幹事業	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)	○
	市道木田117号線整備	○
	木田駅前駐輪場整備	○
	地下式調整池整備	－
	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)	○
提案事業	安心・安全施設事業	－
	事後評価分析業務	－
	まちづくり協議会活動	◎
関連事業	あま木田郷南土地地区画整理事業	－
	公共下水道整備事業	－
	緊急農地防災事業	－

効果発現要因の整理

- ・土地地区画整理事業の宅地化により新住民が増加する中、まちづくり協議会活動において、駅前マルシェの実施やパンフレット「きだのれきし」の作成により、**地区のにぎわい創出に係る意識醸成が図られた**と考えられる。



今後の活用

- ・引き続き、駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴史・文化の継承を実施する。

3) 成果の評価、効果発現要因の整理

【定性的な効果発現状況】

資料 3 p. 9

- ・ 定量的な指標では評価できない効果の発現について、「まちづくりのプロセス」に着目して定性的に評価する

定性的効果発現状況

○持続的な組織の体制構築

- ・ 駅前マルシェの実施により、今後の継続実施に向けた体制構築の機運が高まった。

○地元住民の交流の場の創出

- ・ パンフレット「きだのれきし」の作成において、まちづくり協議会を対象としたワークショップを開催したことで、地元住民が地区の歴史・文化を振り返り、新旧住民に守り伝える機会が生まれた。

4) 実施過程の評価

資料 3 p.10

○実施過程の評価

- ・事業の結果に至るまでの実施過程を検証するため、「持続的なまちづくり体制の構築」の結果等について評価する

【作成日】

令和7年12月

【作成資料】

事後評価シート

【評価項目】

○持続的なまちづくり体制の構築状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった 理由		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった 理由		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった 理由		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった 理由		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった 理由	Ⅰ. 体制構築に向けた取組内容 Ⅱ. まちづくり組織名・組織の概要	今後の対応方針等
数箇所の整備やコミュニティ向上によるにぎわい創出等について検討を進め、今後の地域まちづくり推進団体として継続を図る。	● 新旧住民の交流によるにぎわい創出に向けた駅前マルシェ等のイベントの継続実施	（仮称）駅前マルシェ実行委員会	地元の事業者から協賛金を募る形で資金を調達するなどして、にぎわい創出に向けた取組の継続実施を図る。

★評価委員会で審議する事項

- ・設立した組織は、事業完了後も持続的に活動できるか

4) 実施過程の評価

【持続的なまちづくり体制の構築状況】

資料 3 p.10

組織概要等

【取組内容】

- ・ 新旧住民の交流によるにぎわい創出に向けた駅前マルシェ等のイベントの継続実施

【まちづくり組織名】

- ・ 木田地区まちおこし委員会 ※原案の内容から更新

【今後の対応方針等】

- ・ 地元の事業者から協賛金を募る形で資金を調達するなどして、にぎわい創出に向けた取組の継続実施を図る。

5) 事後評価原案の公表

資料 3 p.17

○事後評価原案の公表

- ・これまでの手続きによる評価結果を「事後評価原案」として公表し、寄せられた意見等を事後評価に反映させることを目的として行う

【公表期間】 令和7年12月15日～26日

【意見受付期間】 令和7年12月15日～26日

【公表方法】 市ホームページに掲載
広報に公表方法等を掲載
都市計画課窓口での閲覧

【作成資料】 事後評価シート原案

【意見数】 0件

様式2

都市再生整備計画事業 事後評価シート(案)

木田駅周辺地区

令和7年12月

愛知県あま市

議題（２） 今後のまちづくりについての 審議

1) 今後のまちづくり方策

資料 3 p.13~15

○今後のまちづくり方策

事業をきっかけに取組を展開させ、エリア全体としての持続的な更新及び価値向上につなげるために、交付終了後のまちづくり方策について検討する

【作成日】

令和7年12月

【作成資料】

事後評価シート

【評価項目】

- まちの課題の変化
- 今後のまちづくり方策
- フォローアップ計画

居住様式①-① まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
道路雨水の軽減に向けた安全・ 安心な生活環境の整備	地下式調流池の整備及び雨水幹線水路の改修により、地 区内における排水機能が向上した。	引き続き、安全・安心な生活環境づくりの実現に向けて、木田排水 基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能の向上を進めることが課 題。	
駅周辺の歩行者・自転車の通行 環境や駅前の公共空間の利便 性の向上	市道木田駅前線の南伸整備等により、木田駅周辺にお ける交通利便性や安全性が向上した。また、駐輪場の拡張 等により、周辺駐輪場の台数不足が解消された。	市道木田駅前線に接続する道路の整備及び歩道整備等による、一 部の安全性向上が課題。	
整備した駅前広場に滞在できる 快適な施設環境の一度の向上	多目的トイレの整備により、駅前空間における快適性・利便 性が向上した。		
地域コミュニティの結束を高める ためのにぎわい形成・魅力向上 に向けた取組の推進	まちづくり協議会活動において、地元行事と連携した駅前マ ルシェの実施や、地区の歴史・文化を伝えるイベント「き だのれきし」の作成により、木田駅周辺のまちづくりに関 する興味・関心を持つ住民が増えた。	新たに設立した地元主体の組織が、地域と連携・協力しながら、 今後も継続して駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向 けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴 史・文化の継承を実施していくことが課題。	
地域まちづくりの母体となる組織 の継続	「地元住民等で構成される(仮称)駅前マルシェ実行委員会 を新たに設立し、地元主体による駅前マルシェ等の継続実 施に向けた組織体制を構築した。	新たに設立した地元主体の組織が、地域と連携・協力しながら、 今後も継続して駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向 けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴 史・文化の継承を実施していくことが課題。	

居住様式①-② 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A期 効果を持続させるため に行う方策	交通アクセスの向上 駅前空間のにぎわい創出に向けたイベントの継 続実施	・市道木田駅前線の整備及び駐輪場の拡張により交通量の増加が予測される 市道木田駅前線において、歩行者及び自転車の安全性を確保するために道 路整備及び歩道整備を検討する。 ・新たに設立した(仮称)駅前マルシェ実行委員会において、駅前マルシェを継 続実施するなどして、地区の持続的なにぎわい創出を図る。	・市道木田駅前線の道路及び歩道整備 ・地元住民等で構成される活動組織による、ポットパター等 を活用した継続的なイベント実施
B期 改善策	改善する事項 排水施設の整備・維持管理	改善策の基本的な考え方 ・整備した施設の維持管理を行うとともに、木田地区排水基本計画等に基づ き、流出抑制や排水機能向上に向けた施設整備を検討し、安全・安心な生活 環境を形成する。	排水施設の整備・改修
・未達成の目標を達成するため の改善策 ・未解決の課題を解消するため の改善策 ・新たに発生した課題に対する 改善策			

★評価委員会で審議する事項

- ・まちの課題の変化は事業効果を適切に反映しているか。他に重要な視点はありますか。
- ・今後のまちづくり方策は、事業の効果を活用する内容として適切か。

1) 今後のまちづくり方策

○まちの課題の変化

資料 3 p.13

まちの課題	達成されたこと	残された未解決の課題
道路冠水の軽減に向けた安全 安心な生活環境の整備	地下式調整池及び水路改修等 により、地区内の排水機能が 上昇	引き続き木田排水基本計画等 に基づき、流出抑制や排水機 能の向上を進めることが課題。
駅周辺の歩行者・自転車の通 行環境や駅前の公共空間 の利便性の向上	木田駅前線の南進整備、駐輪 場整備により、駅前の利便 性・安全性が向上	市道木田駅前線に接続する道 路の整備及び歩道整備等によ る、一層の安全性向上が課題。
整備した駅前広場に滞在でき る快適な施設環境の一層の向 上	多目的トイレの整備により、 駅前空間の快適性・利便性が 向上	—
地域コミュニティの結束を高 めるためのにぎわい形成・魅 力向上に向けた取組の推進	駅前マルシェの実施や「きだ のれきし」の作成により、ま ちづくりへの興味関心を引き 出した	新たな組織による木田駅周辺 のにぎわい創出に向けたイベ ントの継続実施や、「きだの れきし」等による歴史・文化 の継承を実施していくことが 課題。
地域まちづくりの母体となる 組織の継続	駅前マルシェの継続実施に向 けて「木田地区まちおこし委 員会」を設立	

1) 今後のまちづくり方策

○今後のまちづくり方策

資料 3 p.14

- ・「まちの課題の変化」を踏まえ、以下の2項目で今後のまちづくり方策を検討

効果を持続させるために行う方策(A欄)

- ・「達成されたこと」に対応して、その効果を持続させるための方策

改善策(B欄)

- ・「残された未解決の課題」に対応して、その改善を図るための方策

まちの課題	達成されたこと	残された未解決の課題
道路冠水の軽減に向けた安全 安心な生活環境の整備	地下式調整池及び水路改修等 により、地区内の排水機能が 上昇	引き続き木田排水基本計画等 に基づき、流出抑制や排水機 能の向上を進めることが課題。
・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・

1) 今後のまちづくり方策

○今後のまちづくり方策

資料 3 p.14

<効果を持続させるために行う方策①>

【課題 2 : 達成されたこと】 駅前安全性向上

木田駅前線の南進整備、駐輪場整備により、駅前の利便性・安全性が向上



交通アクセスの向上

市道木田駅前線の整備及び駐輪場の拡張により交通量の増加が予測される市道北苅木折線において、歩行者及び自転車の安全性を確保するために道路整備及び歩道整備を検討する。

1) 今後のまちづくり方策

○今後のまちづくり方策

資料 3 p.14

<効果を持続させるために行う方策②>

【課題 4、5：達成されたこと】にぎわい創出の継続実施

- ・ 駅前マルシェの実施や「きだのれきし」の作成により、まちづくりへの興味関心を引き出した
- ・ 駅前マルシェの継続実施に向けて「木田地区まちおこし委員会」を設立



駅前空間のにぎわい創出に向けたイベントの継続実施

新たに設立した「木田地区まちおこし委員会」において、駅前マルシェを継続実施するなどして、地区の持続的なにぎわい創出を図る。

1) 今後のまちづくり方策

○今後のまちづくり方策

資料 3 p.14

<改善策>

【課題 1：残された未解決の課題】 排水機能の向上

引き続き、安全・安心な生活環境づくりの実現に向けて、木田排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能の向上を図る必要がある



排水施設の整備・維持管理

整備した施設の維持管理を行うとともに、木田地区排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能向上に向けた施設整備を検討し、安全・安心な生活環境を形成する。

2) フォローアップ計画

○フォローアップ

資料 3 p.15

- ・「**見込み値**」を使用した指標は、来年度、事業完了後にフォローアップを行い、「**確定値**」を計測予定。

指標		達成度	フォローアップ計画	
			予定時期	計測の方法
指標 1	災害に対する不安の改善度	○	—	
指標 2	地区内の歩行者交通量	△	令和 8 年 9 月	市道木田駅前線及び駐輪場整備の完了後に、名鉄木田駅前線における自転車・歩行者通行量調査を実施し、南行き及び北行きの合計通行量を計測する。
指標 3	まちづくり活動参加人数	○	—	
その他指標 1	にぎわいや地域活動の活発さに関する住民満足度	—	—	

評価委員会後のスケジュール

評価委員会後のスケジュール

本日：評価委員会



本日午後：まちづくり協議会委員会開催（指標3確定）



事後評価シートの修正・とりまとめ

令和8年2月：事後評価結果を国へ報告



令和8年3月：事後評価シートの公表



令和8年度：フォローアップ